

汽水・淡水産魚類

種名	イドミミズハゼ ( <i>Luciogobius pallidus</i> )
指定をする理由	西日本の固有種であり、分布域は、広くない。また、当該種は、汽水域の小礫(れき)底に潜入し、地下生活を送るため、水質の汚濁及び河床の劣化(目詰まり)に極めて弱く、1990年代半ばには、絶滅にひんした。生息状況は、不安定で、1回の調査による発見数は、20尾以下であるが、新莊川汽水域は、全国最大の生息場兼産卵場であり、全年級群もそろっている。
形態	体は円筒形でやや細長い。頭はややひしゃげ左右に幅広い。眼は地中生活のため退化して極端に小さい。生時は半透明のピンク色を呈する。
生息分布状況	群生する新莊川では河口～1.0kmの汽水域に分布しており、9月には完熟雌が出現する。産卵期は9～11月で、流下仔魚の量も最も多い。10月の体長組成は8～10mm、20～40mm、50～60mmでこれらは当歳魚、満1年魚および2年魚とみられる。
種の存続を脅かす要因	流域における開発等による土砂流入。各種排水による水質汚濁。
保護に関する指針	本種の捕獲等については、県内全域において知事の許可を受けた場合以外は、当該種の捕獲等を禁止するものとする。
高知県レッドデータブック掲載状況	CR+EN(絶滅危惧Ⅰ類)
高知県希少野生動植物保護基本方針該当項目	種の存続に支障をきたす程度の個体数の減少



写真:岡村 「高知県レッドデータブック(動物編)2002」より